

■10月22日

国交省、整備規程関連改定—整備基地以外での機材修理・委託など

国交省は、本邦航空会社の整備士が整備基地以外で機材の修理することや他社に委託する際の手順等を整備規定に定めることを明確化する方針を決めた。

また、整備士が搭乗確認制度については、整備規定に整備従事者数を明示する規制を緩和する見込みだ。

(日刊航空)10/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

日航、パイロット訓練にMPL訓練を導入—日本初

日本航空は21日、パイロット養成にあたって、初めからエアラインの副操縦士業務に特化した“准定期運送用操縦士”(MPL:Multi-crewPilot License)を取得する訓練を2014年4月から開始すると発表した。海外の飛行訓練学校COAA社とMPL訓練の委託契約を締結した。

当面はJALへパイロット候補生として入社したものの、その後の経営破綻で訓練に入れずにいる計113名が、MPL取得を目指す。また、今回MPLを導入するのはB767型機とB737-800型機に限定する。MPLの導入は、国内ではJALが初めてとなる。

JALでは、MPLによって従来方式(全行程約36ヵ月)と比べて6ヵ月間以上の訓練期間短縮や1億円かかると言われている養成コストを半分程度に抑えられるとしている。今後、社内でMPL訓練シラバスを策定、国土交通省からの承認を目指す。

MPLは、エアラインのパイロットのうち副操縦士に特化したライセンスで、2006年に国際民間航空機関(ICAO)で規定され、日本では2012年4月から法制化された。MPLの要件として、事業用操縦士として240時間以上の飛行、知識は機長と同等程度を求めるとなどを規定している。

実際の訓練では、シミュレーターを最大限活用するほか、2人のパイロットがチームとなって安全運航を遂行する能力を高める訓練(CRM)を行うなど、効果的なエアライン・パイロット養成が可能となっている。

なお、全日空も以前からMPLについては検討しているが、現時点で導入決定には至っていない。

(日刊航空)10/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1022-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-1022-02.pdf>)

(JALプレスリリース)10/21

<http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002686.html> (-> <http://press.jal.co.jp/ja/release/201310/002686.html>)

- ① JALにおけるMPL制度導入後の副操縦士養成のイメージ
- ・飛行訓練装置などの機材を最大限活用し、エアラインの副操縦士養成に特化した訓練を実施。
 - ・訓練効率が向上することで、訓練期間が約6か月以上短縮。



- ② JALにおける従来の副操縦士養成のイメージ
- ・大型機(2人操縦機)の資格取得のために、小型機(1人操縦機)の機長としての訓練が長期かつ多く必要。
 - ・機能が飛躍的に向上している飛行訓練装置などの機材の活用が限定的。



全日空、燃油サーチャージ値上げ、日航と同水準

全日空は21日、2013年12月1日から2014年1月31日発券分について、燃油サーチャージの値上げを発表した。これは、8月から9月の航空燃油市場価格の平均が、1バレルあたり124.34米ドルになったため。日航が18日に発表した額と同水準になる。

(ANAプレスリリース)10/21

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-112.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-112.html)

2. 運賃額 : 次の運賃を日本発の国際線区間に適用(1旅客1区間片道あたり)

路線	現行	改定後
日本=欧州・北米(ハワイ除く)・中東・オセアニア	21,000円	23,500円
日本=ハワイ・インド・インドネシア	13,500円	15,000円
日本=タイ・シンガポール・ミャンマー	10,500円	11,500円
日本=ベトナム・フィリピン・グアム・サイパン	6,500円	7,000円
日本=中国・香港・台湾・マカオ	5,500円	6,000円
日本=韓国	2,000円	2,200円

スカイマーク、羽田—鹿児島、神戸—新千歳線増便、12月20日—1月31日

スカイマークは18日、12月20日から2014年1月31日の運航スケジュールを発表した。期間中は直行便28路線、経由便を含め41路線最大で86往復便を運航する。

米子への新規就航のほかに、この期間は羽田—鹿児島線を12月19日までの4往復便から5往復、神戸—新千歳線も1往復から月曜日から木曜日は2往復に増便を行う。

(Flyteam)10/21

<http://flyteam.jp/news/article/27818> (-> <http://flyteam.jp/news/article/27818>)

(スカイマークHP)

http://www.skymark.co.jp/ja/news/pdf/131018_schedules.pdf (->

http://www.skymark.co.jp/ja/news/pdf/131018_schedules.pdf)

エアバスCEO、日本での市場占有率、2025年には50%に引き上げ目指す

エアバスのファブリス・ブレジエ社長兼最高経営責任者(CEO)は、都内の講演のなかで、現在の日本での市場占有率の約13%から2020年には25%まで拡大させ、さらに「今後20—25年の間に日本でのシェアを最大で50%程度まで引き上げたい」と語った。bloombergなどが報じた。

また、一層のシェア拡大には、最良の機材の投入と最良のパートナーを増やす必要があり、機材については日本での主力は旅客機のA350と、既に関済済みの超大型の2階建て旅客機A350の2機種とした。パートナーについては現在約10億ドル(約980億円)規模の部品や部材の購入額を今後引き上げ、日本での協力会社数も増やしたいとした。

一方、日航が今月7日、A350-900を最大で56機を購入すると発表したことについては、「誰も想定しえない驚きだったはず。これはエアバスにとっては大きな変化になる」と述べた。

(bloomberg) 10/21

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MV029X6TTDSH01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MV029X6TTDSH01.html>)

中国、1-9月、航空機輸入状況、前年同期比49.6%増543機

中国国家統計局は、2013年9月の航空機輸入状況を報告した。

統計データによると、中国が2013年9月に輸入した航空機は66機で、輸入額は25億8055万ドル。

これにより、1月-9月の航空機累計輸入台数は、2012年同期比49.6%増の543機、同輸入総額は、前年同期比34.5%増の153億4856万ドルに達している。

中国9月航空機輸入台数は、8月より減少したものの、依然として高い水準を維持している。

(ChinaPress) 10/21

<http://www.chinapress.jp/consumption/38789/> (-> <http://www.chinapress.jp/consumption/38789/>)

海南航空、シベリア航空とコードシェア締結

海南航空は、ロシア航空会社、S7航空(シベリア航空)とコードシェア締結をしたと発表した。

ChinaPressによると、今回コードシェアの対象となる路線は、S7航空のノボシビルスク-北京、サンクトペテルブルク-北京、クラスノヤルスク-北京、ハバロフスク-北京路線。

海南航空の北京-モスクワ、北京-サンクトペテルブルク、北京-三亚、北京-広州、北京-上海、北京-新セン路線となっている。

(ChinaPress) 10/21

<http://www.chinapress.jp/pd/38808/> (-> <http://www.chinapress.jp/pd/38808/>)